

❖ 講演会・研究セミナー ❖

明治・大正期の龍谷大学関係雑誌

酒生慧眼と高輪仏教大学歴史部の設置構想

2023 年 7 月 19 日（水）17:15～18:45

オンライン開催（Google Meet）



酒生慧眼（1865～1910）福井市本願寺派浄福寺に生まれる。明治18年普通教校入学、23年文学寮卒業、第二高等中学校（仙台）を経て、帝国大学（東京大学）進学、31年に卒業した。卒業後、文学寮教授・仏教高等中学を経て、35年に高輪仏教大学学長に就任し、同大学に歴史部の設置を構想したが、眼病ため翌年辞任。37年から私立大阪商業学校（現大商学園高等学校）校長に就任、同校の発展に貢献し、同校中興の祖と称せられた。

主 催：龍谷大学世界仏教文化研究センター（RCWBC）

仏教史・真宗史総合研究班 代表 文学部歴史学科 中西直樹

酒生慧眼のプロフィール

❖ 概 要 ❖

2023 年 7 月 19 日（水）、龍谷大学世界仏教文化研究センター 基礎研究部門の常設研究班「仏教史・真宗史総合研究班」（代表：文学部歴史学科 中西 直樹教授）主催、明治・大正期の龍谷大学関係雑誌に関する研究セミナー「酒生慧眼と高輪仏教大学歴史部の設置構想」をオンライン形式で開催した。司会は近藤俊太郎氏（龍谷大学非常勤講師）が担当した。

講 演 者：中西 直樹 氏（龍谷大学教授）



中西 氏

中西氏によると、1900 年前後は、近代的仏教史研究の黎明期とも言うべき時期であり、同じ頃に真宗本願寺派の設置する高輪仏教大学では、歴史部設置の構想も進められていた。そして、その構想の中心にいたのが、高輪仏教大学の初代学長・酒生慧眼であった。構想は実現には至らず、その事実もほとんど知られていないが、仏教史学専修の高等教育・研究機関をいち早く設置しようとした点は、注目に値すべきものであったという。

中西氏はこのセミナーにおいて、酒生慧眼の人となり及びその歴史部設置の構想について、彼の略年譜を参照しつつ、まずその修学時代の人間関係（普通教校・文学寮時代の学友）と活躍ぶりを紹介した。同じく福井県出身の関係者が数多くいたことが印象的である。ついで、「仏教史学研究必要論の提唱」「中央商業学校・高輪仏教大学の設立」「高輪仏教大学歴

史部の設立構想」「高輪仏教大学廃止と本山の処分」「大阪商業学校長時代」といった方面から、当時の人間関係が実際にどの程度の影響力があって、どのような権力関係が存在していたのかを想像させるのに非常に重要な、単純に達令類や論説だけでは読み取りにくいところの情報を提示しつつ、酒生慧眼の生涯の活動を追跡し、その功績を論じた。